

JIFAS 2017 年 4 月・ウニ養殖の実証試験を開始予定

ウニの養殖は多年に渡り国内生産量の継続的減少、需給のギャップを海外輸入に頼ってきた日本のウニ事情を反映して、各地で海上でのウニの短期畜養の試みなど、国産ウニの養殖の気運が高まっている。

JIFAS ではオーストラリアでの産学一体でウニの養殖方法の最適な実施方法について、長年研究を続けてきた結果、商用ベースでのパイロット閉鎖式完全循環方式による養殖の実現化に見通しがついたところである。JIFAS では既に委細を JIFAS NEWS 2016 年 7 月で「うにの陸上養殖の提案」に書いているが、オーストラリアの今までのウニ養殖の技術と JIFAS の閉鎖式陸上養殖技術のノウハウを活用して、2017 年養殖を開始する計

新年号



画である。

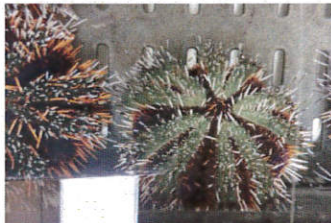
1. ウニの養殖には最適な人口餌が必要である。

① 最適な人口餌の開発の必要

- 天然原料を利用する場合の有限な資源量、季節性、コストから人工餌の利用は必須である。

② 必ずしも養殖の生産性は高くないため高い GI 値（実入り率）が求められる。現在の確認している GI 値は 22%~25% である。

③ ウニの味、形、色、硬さ等を餌である程度調整できる。



2. 設備面での養殖技術・経験が必要

ウニの種類により、生態系が異なり養殖層の水流、深さ、養殖密集度等が異なり、経験者のノウハウが必要である。

3. ウニ養殖のメリット

ウニの市場価格は月により大きく変動する。一番高値で売れる時期に合わせて出荷が可能になる。温度と光の調整で、出荷時期をコントロールが可能。



4. 実施要項

- 上記 1. の餌の供給者はアワビの餌でマーケットを独占しているアクアフィード社からの独占購入で対応し、2. はオーシャンピュア社の指導を受ける。
- 養殖のノウハウ蓄積のために、成長速度が速く、鹿児島から沖縄に生育している白髭ウニを最初に養殖対象にし、徐々に対象種を増やして行く。
- 最初の養殖開始時期は作業の簡素化のために、ウニの孵化後 5 mm になった子ウニをテスト用に輸入し、基本設備も豪州から輸入して設置の計画。